

学番	40	県立栃尾高等学校
----	----	----------

平成30年度

学校自己評価表（報告）

学校運営計画							
学校運営方針		1 地域を支える、地域に応えられる人材の育成 2 基礎力（学力・体力・忠恕）充実から節度の育成 3 「知徳体（知仁勇）」の実践から健全な人間育成					
昨年度の成果と課題		年度の重点目標		具体的目標			
成果 (1) 「オンリーワンスクール新潟未来プロジェクト」3年目の実施と3年間のまとめ (2) 特別支援教育の充実 (3) 生徒の進路希望達成の促進 (4) インターンシップの新たな受入れ先の開拓 (5) 進学希望者個別補習、夏季進学補習への参加促進 (6) 生徒指導の充実 (7) 部活動の活性化 (8) 体験入学の活性化 (9) 「地域の声を聞く会」の充実 (10) 授業公開の拡大		総合学科の特性の発揮と学ぶ目的の明確化		各系列における主となるテーマに基づく指導			
				キャリア教育としての位置づけの中での生徒の主体的な科目（系列）選択			
				学習指導要領改訂や募集学級減計画に伴う教育課程の点検・見直し			
		生徒の学習意欲の向上と基本的生活習慣の確立		入学当初からの継続的なキャリア教育の実施とわかる授業の実践		基本的な生活習慣の確立と問題行動に対する予防指導の徹底	
						生徒情報の共有化と特別支援教育の充実	
						中途退学・転学者、長期欠席者の防止	
				地域の企業や福祉施設、幼保・小・中学校、行政、住民等との連携・交流の充実		栃高未来プロジェクト委員会の活動	
						創立110周年記念事業（平成30年11月10日式典）の実施	
						学校評議員会、地域の声を聞く会における連携の強化	
いじめのない学校づくり 部活動の活性化		地域の幼保・小・中学校等との連携の双方向化					
		地域活動への積極的な参加					
		学校ホームページの充実と学校便り等の発行					
		「いじめ防止基本方針」・「行動計画」の実効化 人権意識の醸成によるいじめの未然防止					
重点目標	具体的目標	具体的方策		(部署)	評価		
総合学科の特性の発揮と学ぶ目的の明確化	各系列における主となるテーマに基づく指導	「産業社会と人間」における系列説明会等で、各系列ごとの特色や進路などを具体的に提示する。		1年次	A	A	B
		進路目標の実現を図るとともに、職場や進学先で他者と協調しつつ自立できる態度や能力を養う。		3年次	A		
		生徒の実態に応じてさまざまな教材を選定し、社会人として通用する読解力・表現力を養わせる。		国語科	B	B	
		家庭・福祉系列において、地域交流を取り入れた校外実習を行うとともに、各種検定を取り入れ、技術の向上と社会貢献に関する意識を高めさせる。		家庭科	A		
		実験・実習を多く取り入れ、ものづくりを体験しながら、エンジニアとして必要な知識や技能を身に付けさせる。		工業科	B		

		工業に関わる資格・検定試験の指導と実施。	工業科	A		
		商業に関わる資格や各種検定の指導と実施。	商業科	A		
		商業科目を学ぶことを通して、社会人としてのマナーを身につけるよう指導する。	商業科	A		
キャリア教育としての位置づけの中での生徒の主体的な科目(系列)選択		「産業社会と人間」や橡峰ライフ等を通して自己理解と進路に対する意識を深めさせ、主体的な科目(系列)選択ができるよう、ガイダンス等の内容を充実させる。	1年次	B	A	A
		選択科目説明会等で各系列ごとの特色や進路を具体的に提示し、自らの進路に即した科目選択ができるようにする。	2年次	A		
		情報を収集処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行う能力を養い、情報社会に参画する態度を育成する。	情報科	A	A	
		総合学科としての特性を生かし、工業系列選択者に対し、機械・電気・建設・情報・デザイン等の工業各分野において興味・関心を持ち、幅広い知識や技能を身につけることができるような授業のテーマや内容を設定する。	工業科	A		
		学年・教科および教育課程検討委員会との連携を図り、本校の系列の特徴を具体的にわかりやすく説明する。それにより学習活動を通じて勤労観・職業観を育成できるような科目選択を行わせる。	教務部	A		
学習指導要領改訂や募集学級減計画に伴う教育課程の点検・見直し		アクティブラーニングを取り入れ活動も評価の対象とし、生徒の自主的な活動を促す。	1年次	A	A	A
		自己実現の達成に向け、作品の廊下掲示や橡峰祭の発表等の表現活動を行い自己理解の認識と能力向上に努める。	芸術科	A		
		日常生活に芸術を取り入れ、自他批評する能力を養い、自らの可能性を追求し、自己発見する。	芸術科	A		
		小規模総合高校のあり方について各系列、カリキュラム委員会等と連携し検討するとともに、教育課程見直しの準備を進める。併せて、新学習指導要領へスムーズに移行できるよう、情報収集等を行う。	教務部	A	A	
生徒の学習意欲の本的生活習慣の確立	入学当初からの継続的なキャリアわかる授業の実践	「産業社会と人間」「橡峰ライフ」の内容を踏まえ、3年間を見通した進路指導の充実を図る。	1年次	A	A	B
		インターンシップや進路ガイダンスなどを通して進路を具体化させるとともに、勤労の大切さを実感させる。	2年次	A		
		生徒面談や保護者面談を通して、進路情報の提供や助言を行う。	2年次	A		
		橡峰ライフの時間を中心に、進路に関する情報を提供するとともに、面接・作文・小論文の指導を実施し、進路実現を図る。	3年次	A		
		個人面談や三者面談を通じて、生徒の進路希望を保護者、職員間で把握できるようにする。	3年次	A		
		漢字学習の好機 および 資格取得の機会として漢字能力検定を年三回校内で実施出来るよう計画し、生徒の基礎学力向上を図る。	国語科	A	B	
		副教材を活用して基礎学力の向上を図るとともに、文章力を養い、進路希望の実現を目指す。	国語科	A		
		習熟度別クラスを展開し、生徒の実態に応じた教材の提供や適時の補習等により数学検定3級程度の計算力を身につけさせる。	数学科	A		
		少人数クラス展開により学習効果を高め、英語の基礎力の	外国語	A		

	養成に努める。				
	ALTとの授業を通じ異文化に対する興味や理解を深め、国際社会に通じる人権意識を養う。	外国語	A		
	パフォーマンステストを年2回以上実施し、積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿勢を養う。	外国語	A		
	希望する進路実現に備え、資格・検定試験の受検を教科内で指導し、卒業までに一つでも多くの資格が取得できる指導を行う。丙種危険物取扱者・計算技術検定・基礎製図検定・情報技術検定においては50%以上の合格を目指す。	工業科	A		
	プレゼンテーションの授業を取り入れることにより、自分が伝えたいことを相手にきちんと伝えられる人材の育成とコミュニケーション能力の育成に努める。	工業科	B		
	基礎基本の定着を図り、進路実現に結びつける。各資格検定の合格率を向上させる。	商業科	B		
	年間活動計画を策定し、全校生徒へのアンケートや意見交換を行い、自発的参加の委員会活動や行事運営を進める。また役割分担を明確にし、参加意欲を高められる行事への企画・運営を行う。	生徒会部	A	B	
	上級学校見学・企業見学を通して、求められる力を把握し、進路目標を明確にさせる。	進路指導部	B		
	外部講師等による進路ガイダンスや模擬授業を提供し、自己の適性に見合う進路を考えさせる。	進路指導部	A		
	基礎力テスト、適性検査等を年間3回実施し、個々の基礎学力の向上を図る。	進路指導部	A		
	個々の生徒に対応した進学補習を年間を通して継続的に行うことにより、学習意欲を喚起し、進学に必要な学習習慣の定着と学力の向上を目指す。	進路指導部	B		
	模擬試験を実施し、進路を意識した学習の定着と入試に向けた実践力の向上を図る。	進路指導部	A		
	個人面談などを通じて生徒の希望や適性を把握し、担任との連携を図りながら、具体的な進路目標を設定させる。また、企業訪問を行い企業の採用に対する考え方を分析し、具体的情報を提供する。	進路指導部	A		
	ハローワークと連携し模擬面接や個別面談を行い、個々の希望・適性に応じた指導を行う。	進路指導部	A		
	日常の生徒とのやりとりの中で、また作文指導や面接指導を通じ、社会人としてのマナー・常識の確立を図る。	進路指導部	A		
基本的な生活習慣の確立と問題行動に対する予防指導の徹底	朝学習を通じて授業の始業・終業時の規律を守れるよう指導する。	1年次	B	B	B
	遅刻・早退の防止とともに、授業の始業・終業時の規律を守れるよう指導する。	2年次	B		
	朝学習を行い、基礎学力と学習習慣の定着をはかる。	2年次	A		
	率先して学校行事や部活動に参加し、最高学年としての責任を果たす。	3年次	A		
	漢字小テストを計画的に実施するとともにワークブックの提出を定期的に課し、計画的かつ継続的な家庭学習の習慣を養う。	国語科	A	A	
	定期的に課題を課し、家庭での学習習慣の確立を目指す。	数学科	A		
	必要に応じ課題などを課し、基礎的な学力の定着を目指す。	理科	A		
	食生活、睡眠（休養）、運動の大切さを理解し、自ら計画及	保健体育	A		

	び管理し、健康の保持増進のために1日の生活のリズムの確立を促す。	科			
	服装・時間・挨拶・競技ルールの遵守等を徹底し、集団における規律や協調・協力の重要性を理解し、安全な学校生活を送れるように指導する。	保健体育科	A		
	授業開始時刻を徹底し、時間厳守による自己管理の育成を促す。共同制作を通じて協調性を育む。	芸術科	A		
	全校集会等を通じ、欠席や遅刻、服装等の身だしなみ、貴重品管理の徹底などの指導や、学業における不振科目が出ないよう計画・助言する。	教務部	B	B	
	登校時の玄関指導、昼休みの外出導防止指導を行う。	生徒指導部	A		
	定期的に服装・頭髪検査を実施し、改善が見られるまで継続的な指導を行う。	生徒指導部	A		
	携帯安全教室、薬物乱用防止の講演会を年間行事に組み入れ、生徒の指導に役立てる。	生徒指導部	A		
	交通安全に努め、原付バイク通学者に実技指導を実施する。	生徒指導部	A		
	問題行動のあった生徒には、授業態度など継続的な指導を行う。	生徒指導部	A		
	全校体制での校内巡視、PTAなどと連携した校外巡視等を行い、問題行動を未然に防ぐ。	生徒指導部	A		
	定期的に警察等関係機関との連携を図り、情報交換を行う。	生徒指導部	B		
	あいさつ運動を継続的に行い、学校全体の活力につなげ、社会的マナーの向上につなげる。	生徒会部	A		
	保健便りを発行し、健康・安全に関する情報提供を行う。	保健環境部	B		
	各種検診を実施し、事後の指導を通じて早期治療を促す。	保健環境部	B		
	緊急時の連絡体制を整え、教職員に周知する。	保健環境部	B		
生徒情報の共有化と特別支援教育の充実	中高連携シートの内容を共有し、各生徒の特性に応じた対応ができるよう学年全体で取り組む。	1年次	A	A	A
	学年会で、生徒情報を共有し、配慮が必要な生徒に対しては、ケース会議メンバーと協力して支援を行う。	2年次	A		
	心身の問題、疾病、その他配慮が必要な生徒についての情報を職員全体に共有し、必要に応じてケース会議を実施して、個別の対応や、スクールカウンセラー・外部機関との連携を行う。	保健環境部	A	A	
中途退学・転学者、長期欠席者の防止	基本的な生活習慣の確立をはかる。また、基礎的な学習事項を繰り返し学習させる、成績不振や未履修・未修得を防ぐ。	1年次	B	A	B
	基本的な生活習慣の確立や学習習慣の定着をはかり、成績不振や未履修・未修得を防ぐ。	2年次	A		
	個々の生徒への声かけを行い、問題を抱えている生徒の早期発見と対応に努める。	2年次	A		
	特に支援や配慮が必要な生徒については、教員間で情報を共有し、共通理解を図る。	2年次	A		
	生徒会行事を通して、学年間の横つながりと学年を越えた	生徒会部	A	B	

		縦のつながりや係わりを持たせることによって、学校生活への充実と交流を深められる環境をつくる。				
		保健講話を実施し、生徒の心身の健全化をはかる。	保健環境部	A		
		スクールカウンセラーと連携し、生徒や保護者が抱える問題の解決のために援助を行う。	保健環境部	B		
		教員対象の教育相談研修会を実施し、生徒理解や個別の生徒対応等について学ぶ場を設定する。	保健環境部	B		
地域の企業や福祉施設、幼保・小・中学校、行政、住民等との連携・交流の充実	栃高未来プロジェクト委員会の活動	地域の産業や伝統を体験することにより地域理解をさらに深め、地域の活性化に貢献する。	2年次	A	A	A
		地域探訪を通じて、自然や文化に対する理解を深めるとともに、地域開発等について考察させる。	3年次	A		
		生徒会行事に園児を招き、協力して活動を進める中で、学校間の交流を深める。	生徒会部	A		
創立110周年記念事業（平成30年11月10日式典）の実施	学校評議員会、地域の声を聞く会における連携の強化	創立110周年記念事業の成功に向け、各部署の連携を強化する。	創立110周年記念事業実行委員会	A	A	A
		PTA、地域の声を聞く会等において、外部から寄せられる意見等を参考にして、課題解決を図る。	生徒指導部	A	A	A
		PTA役員交流会に多くの生徒会総務が参加し、積極的に意見交換を行い、学校の環境や学校生活の向上に向けた具体的な活動を検討する。	生徒会部	A		
地域の幼保・小・中学校等との連携の双方向化		中高連携シートを利用し、中学校からの情報を元に、学習指導や生活指導の指導に役立てる。	1年次	A	A	A
		文化祭や演奏会、地域貢献活動等での作品発表・展示・演奏を通じて、地域の方や地元小・中学生にアピールする。	芸術科	A		
		地域の保育園や高齢者施設、織物業組合、社会福祉協議会との連携を深めた内容の実習を取り入れるとともに、生徒自身が地域社会を担う存在であることを理解させ、意欲的に社会参加する態度を育成する。	家庭科	A		
		中学生体験入学を実施し、近隣の中学生に対し模擬授業や学校説明を行い本校の特徴を積極的にPRしていく。	教務部	A	A	
		中学校体験入学での生徒会総務による学校説明を行い、本校の具体的なイメージを持てるように、写真等の映像を活用し、活動をわかりやすく説明できるように努める。	生徒会部	A		
地域活動への積極的な参加		橡峰際にテーマとしてあげおあげみを取り入れ地域理解を深める。	1年次	B	B	B
		長岡ハイスクールガイダンス等に参加し、体験的なブースで中学生や保護者に対し、栃尾高校工業科の特色や学習内容を発信することで、進路選択の一助となるように努める。	工業科	B		
学校ホームページの充実と学校便り等の発行		入学時にオクレンジャーの説明をし情報入手方法の理解を徹底する。また学年便りの内容を精選し重要な情報の伝達をより円滑にする。	1年次	A	A	A
		月1回以上ホームページを更新し、保護者や地域にも学校の状況が伝わるようにする。	教務部	A		
		各行事ごとの映像を撮影し、行事紹介や結果報告の一助となるように努める。また、生徒会新聞の製作を通して、行事等の情報提供を活発に行う。	生徒会部	B		
いじめの	「いじめ防止基	LHR、「産業社会と人間」、橡峰ライフのなど時間を活	1年次	B	B	B

ない学校づくり	本方針・「行動計画」の実効化	用し、幅広く人権教育を行い、いじめや差別を許さない態度を育成する。				
		個々の生徒への声かけや、生徒情報の共有化をはかることで、問題を抱えている生徒の早期発見とその対応に努める。	2年次	A		
		人権に関する校内職員研修会を年2回を目標に開催する。外部講師や視聴覚教材等検討する。	教務部	B	B	
		職員及び生徒に人権意識が高まるような「いじめ撲滅」の全校対象の講演会を計画・調整する。	教務部	A		
		生徒指導部内だけでなく、全職員で情報を共有しながら指導する。	生徒指導部	B		
		定期的にアンケートを実施するとともに、委員会を開催し、いじめの兆候を早期に察知する。	いじめ対策委員会	A		
		いじめを察知した場合は随時、拡大いじめ委員会を開催し、対策を協議する。	いじめ対策委員会	A		
		いじめに関する職員研修を開催する。	いじめ対策委員会	A		
人権意識の醸成によるいじめの未然防止	社会性の涵養を学年目標にかかげコミュニケーションに必要な態度を醸成する。また、いじめアンケート等いじめの兆候に即時に対応する。	1年次	A	B	B	
		LHRや椽峰ライフなどの時間を活用し、幅広く人権教育を行い、いじめや差別を見逃さない心を育てる。	2年次	A		
		生徒一人ひとりが他者の権利を尊重する意識を持ち、行動できる感性と能力を養う。	3年次	B		
		武道や球技等の特性を活かして相手やチームのメンバーを尊重し、協力した活動を促すとともに、相手を思いやる大切さや意識の啓発につなげる。	保健体育科	A	A	
		携帯安全教室を活用し、ネットいじめの未然防止やモラル教育の充実に努める。	生徒指導部	A		
部活動の活性化	魅力的かつ継続的な活動の推進	入学時に生徒に部活動への参加を積極的に呼びかける。	1年次	B	B	B
		授業を通して多くの運動種目を経験し、運動の楽しみや面白さを理解する中で、運動部への興味関心を高め運動部加入率の向上を目指す。	保健体育科	B		
		1年次の全員加入が、2・3学年でも継続できるよう継続的な啓発活動を行う。また、計画的に部活動顧問会議を開催し、部活動の状況を確認および協議することで活発な活動へとつなげる。	生徒会部	B		
成果	(1) 生徒の主体的な科目（系列）選択を通じてのキャリア教育推進 (2) 募集学級減計画に伴う教育課程の見直し、総合学科の特性の發揮 (3) 生徒情報の共有化と特別支援教育の充実 (4) 創立110周年記念事業、学校評議員会、地域の声を聞く会等による地域連携 (5) 地域の幼保・小・中学校等との連携の双方向化	総合評価				
		B				

「A」：計画以上に進んでいる、「B」：概ね計画どおり進んでいる、「C」：計画通り進んでいない